



初番目	二番目	三番目	四番目	五番目
舞囃子	仕舞	仕舞	能	舞囃子
観世流	宝生流	金春流	喜多流	観世流
絵馬	兼平	羽衣	花月	山姥
狂言	和泉流	瘦松		

8/23 2026 日

能楽師による
事前講座
8/7 金

12:00 開場 13:00 開演 (16:00 終演予定)
大濠公園能楽堂 092-715-2155

全自由席 一般 5,000 円 (当日券 6,000 円)
学生 2,000 円

プレイガイド

チケットぴあ Pコード 541-455
*WEB または セブンイレブンにて販売
ローソンチケット Lコード 82744
*WEB または ローソン・ミニストップにて販売

18:00 開場 18:30 開演
(19:30 終了予定)

入場無料

どなたでもご参加できます
大濠公園能楽堂楽屋
楽屋入口よりご入場下さい

大濠公園能楽堂
福岡市中央区大濠公園 1-5
092-715-2155

◎地下鉄「大濠公園」
「唐人町」徒歩7分
◎西鉄バス「大濠公園」
「黒門」徒歩5分



「ほおずき能」は、九州での本格的な能楽公演と位置付けて夏に開催しております。日本の美しい風土や文化を大切に、能楽を通じてその魅力を多くの人に感じてほしい——このような時代だからこそ、そんな願いも込めて開催しています。本年は江戸時代に上演されていた「五番立て」に基づいた番組を組みました。「ほおずき能」を通して能楽が持つ深い魅力を再発見していただけますようお願いしております。

観世 舞囃子

絵馬

シテ 木月 晶子
 小鼓 幸田 光次
 大鼓 白坂 正佳
 太鼓 吉谷 保潔
 細女 菊本 澄代
 力神 菊本 美貴

地謡 今村 嘉伸
 森本 哲郎
 今村 嘉太郎
 多久 島法子
 井内 政徳



木月 晶子

伊勢神宮に訪れた勅使の前で、古の岩戸隠れの神話が蘇る。天鈿女命と手力男神の対比的な舞が、再びこの世に光の源を呼び覚ます。

宝生 仕舞

兼平

久貫 弘能

地謡 東川 光夫
 山岡 晴美
 杉岡 敏英
 福田 清道



久貫 弘能

木曾義仲の最期を見届け、敵陣に散った忠臣・今井兼平の霊が旅僧の前に現れ、主君への愛をわらぬ忠義と凄絶な最期を再現する。

金春 仕舞

羽衣

田中 秀実

地謡 櫻間 右陣
 東軍 三
 名和 長承
 松井 笙子



田中 秀実

春の三保の松原、天人の羽衣を拾った漁師。衣を返す代わりに舞われる美しい天上の舞は「東遊」として人間界に舞い継がれてゆく。

和泉 狂言

瘦松

山賊 野村 万禄

アト 吉住 講

後見 吉良 博靖



野村 万禄

丹波国の山中に住む山賊「やまだち」が、通りかかった女を長刀で脅して持ち物を奪い取ります。中身を物色して喜んでみると、女に長刀を奪われ形勢逆転！さて結末は如何に…。

喜多 能

花月

シテ 大島 衣恵
 花月 大島 衣恵
 フキ 坂 苗融
 旅僧 河原 康生
 アイ 清水寺 門前の者

笛 浦 政徳
 小鼓 飯 富章
 大鼓 原 岡一之
 後見 佐々木 多門
 塩津 圭介

地謡 狩野 了一
 栗谷 充雄
 大島 輝久
 狩野 祐一
 渡辺 康喜
 工藤 義彦



大島 衣恵

幼き日に天狗に攫われ諸国を巡った少年・花月。清水寺で互いに知らぬまま引かれ合う父と子。小歌、曲舞、羯鼓といった中世の若くしの中、失われた歳月がゆっくりと姿を取り戻す。再会の喜びと哀愁が交錯する。

観世 舞囃子

山姥

鷹尾 維教

笛 森田 光次
 小鼓 幸田 正佳
 大鼓 白坂 保行
 太鼓 田中 達

地謡 多久 島利之
 鷹尾 章弘
 今村 一夫
 久保 誠一郎
 山口 剛一郎



鷹尾 維教

山姥の曲舞を得意とする遊女の前に「我こそ真の山姥」と名乗る女が現れる。山を巡り、善悪を超えて万物を育む山姥の本性とは。

終演予定 午後四時

指定者以外は一切の録画・録音はご遠慮願います

舞囃子：能のみどころを面装束なしで舞う上演形態。
 仕舞：楽器もなく謡だけで舞う。能のデッサンとも。